

高齢者の活躍

意欲的に農業に取り組む地域活性化へ繋ぐ農業

活動の経緯

遅能戸地区は、農業生産活動等を通じ農地の保全、水源のかん養、良好な景観形成等、多面的機能が発揮されているものの、担い手の高齢化や農業従事者の減少、獣害の発生等を原因とした耕作放棄地等の増加により、これら多面的機能の維持が懸念されていたことにより活動を開始した。

活動の概要

①鳥獣害防止策として防護柵の設置 ②景観作物の栽培、収穫祭や蕎麦打ち体験の実施



蕎麦播き



蕎麦打ち体験①

活動の成果、主な実績等

①鳥獣害防止策として防護柵の設置

遅能戸地区では、遅能戸地区中山間耕作者組合として農業に取り組んでいたが、いのししやさる等により畑が荒らされる被害が発生していた。組合では被害防止策として、獣が隠れる場所をなくすための草刈り等に取り組んでいるが、効果は限定的であった。対策を検討したところ、耕作地に獣を進入させないことが最も有効ではないかとの意見が出され、獣の進入を防止するための鳥獣害防護柵設置を組合として計画することとなり、平成29年度と平成30年度に設置を行った。設置後は適切な維持管理をすることにより、鳥獣害が減少した。

②景観作物の栽培、収穫祭や蕎麦打ち体験の実施

継続的な農業を実施していくために、景観作物である蕎麦の栽培をしている。この栽培した蕎麦をただ収穫するだけではなく、地域の活性化につなげられるよう収穫祭を実施し、蕎麦打ち体験を実施した。こういった取組により農地の維持管理がより適正化され、蕎麦打ち体験や収穫祭を実施することにより地域内の交流も促進された。